

## 特別活動 学級活動(2)で目指す資質・能力を育むための指導過程とポイント

学級活動(2)は、集団での話し合いを通して、個人の目標を決め、自ら実践する児童生徒の自主的、実践的な活動を特質としています。児童生徒に共通する問題を取り上げ、話し合いを通してその原因や対処の方法などについて考え、自分に合った具体的な解決方法や目標を意思決定し、強い意志をもって粘り強く実行していく一連の指導過程を通して、資質・能力を育むことが大切です。

<指導事例> 小学校第6学年 学級活動(2)ア 基本的な生活習慣の形成

<題材> 「メディア利用について考えよう」

<本時のねらい> 自分のメディア利用の実態と心と体への影響を知り、けじめをつけて利用することができるようにする。(◇は学習活動、◎は指導のポイント)



### 事前の活動

題材の設定 → 問題の確認 → 共通の課題の設定 → 指導計画の作成 → 問題意識を高める →

◇自分のメディア利用について、アンケートに記入する。

◎朝の会や帰りの会などで事前に題材を提示するとともに、事前調査を通して児童自らが「他の人はどう思っているのか。どうしているのか。」などの疑問をもつことができるようにするなどして、問題意識を高めます。

### 本時の活動

#### 1 課題の把握

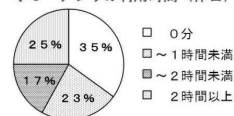
◇秋田県のインターネット利用実態調査や学級の事前アンケートの結果を見て、気付いたことを話し合う。

◎資料やアンケートから、学級や自己の実態を把握できるようにします。ICT活用による視覚化も有効です。

#### 【めあて】

メディアと上手に付き合うためにどうしたらよいか考えよう。

小6 アプリの利用時間(休日)



#### 2 原因の追求

◇メディアに触れる時間が長くなると、心と体にどのような影響が出るのか考える。

<例> ・夜遅くまでゲームをして夜更かしすると朝起きられない。学校でも眠くなる。  
・姿勢が悪くなるし、視力も落ちそうだ。  
・ゲームや動画のことが頭から離れない。

◎取り上げる内容によっては、養護教諭や外部講師などの専門性を生かしたTTの活用も有効です。

#### 3 解決方法等の話し合い

◇メディア利用に関わり、けじめをつけて利用する方法について、自分の経験を想起しながら話し合う。

◎話し合う際のグループを意図的に編成するなどして、多様な視点を基に解決方法を見いだせるようにします。

◎児童が主体的に問題解決の方法や対処の仕方を考えられるよう、必要な情報を教師から提供します。

#### 4 個人目標の意思決定

◇話し合ったことを参考にしながら、これからの生活におけるメディア利用の約束について、個人目標を決める。

<例> ・ゲームは家族のいる部屋です。  
・夜9時以降はメディアに触れず、10時には寝る。

◎机間指導を行い、具体性のある目標が立てられるよう、児童に寄り添いながら指導をします。

### 事後の活動

→ 決めたことの実践 → 振り返り → 次の課題解決へ

◇一定期間実践し、自分の立てた目標や取組について振り返ったり、友達同士で取組を確認し合ったりする。

◎帰りの会などを利用して、個々の努力を互いに認め合い励まし合う場を設定し、みんなで振り返ることで実践の継続化や日常化、共感的な人間関係づくりにつなげたり、自分の努力に自信を深めたりできるようにします。

「自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする」「多様な意見を基に、自ら解決方法を意思決定することができるようにする」「他者と協働して課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成したりしようとする態度を養う」などの資質・能力を育成しましょう。

